

事務事業 No./名 称	■サービス部門 市民-11 観光運営事業 □支 援 部 門									
主管課	観光商工課					関連課				
分野名	観光									
目標 (目標値)	鎌倉の魅力を広く周知することによって、多くの観光客に鎌倉を訪れてもらうため、さらに、それら観光客が安全で快適に観光を楽しむことができるようにする。									
人口等の データ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備 考					
	人 口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世 帯 数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯						
	事業の対象者数	19,743,182人	18,110,868人	19,486,481人						
運営資源 状 況	決算値(千円)	4,156	4,939	4,475						
	(国・県)									
	(負担金等)									
	(一般財源)	4,156	4,939	4,475						
	人員配置数	1.9人	1.9人	1.4人						
	人 件 費(千円)	15,627	17,337	13,505						
	協 働 の パートナー	広域観光団体ほか 推進体制関係団体ほか	広域観光団体ほか 推進体制関係団体ほか	広域観光団体ほか 推進体制関係団体ほか						
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	19,783	22,276	17,980						
	市民1人当 りの経費(円)	112	126	101						
	対象者1人 当りの経費(円)	1	1	1						
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名⇒	横浜	藤沢	箱根	京都	鎌倉				
	観光客数	42,432,204	15,153,934	19,438,000	49,555,000	19,743,182				
	宿泊者数	5,335,688	420,345	4,631,951	13,100,000	319,263				
	宿泊率	12.6%	2.8%	23.8%	26.4%	1.6%				
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)			
入込観光客数	◎	目標値	1,840万人	1,840万人	1,840万人	1,949万人	1,949万人			
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	1,883万人	1,949万人	1,811万人	1,974万人				

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切＝○、要改善＝△(評価の視点を参照)	⇒	方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
観光運営事業	4,156千円	①効率性 △ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒	□A ■B □C □D □E	
	事業の概要	関係団体、協議会と連携し、誘客キャンペーンやパンフレットの作成など広報宣伝や情報交換を行った。 鎌倉を取り巻く社会情勢とともに、観光客の動向やニーズも大きく変化してきていることから鎌倉市観光基本計画の中間改定を行う。				
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	各種協議会の負担金について、各協議会の中でも見直しが図られているが、その使用方法、効果、必要性について検証していく。		
課題解決のための取組	富士箱根伊豆国際観光テーマ地区神奈川県協議会で負担金の見直しが図られた。	取組の結果	□解 決 ■未解決
未解決の課題	各種協議会の負担金について、その使用方法、効果、必要性について検証していく。		

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価と今後の方向性							
中事業の評価	適切＝○ 要改善＝△ (評価の視点を参照) 	①効率性	△	今後の 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了	
		②妥当性	○			平成23年度に鎌倉市観光基本計画を見直したことから、新たなアクションプランを各主体が実施するよう推進・管理していく。 各種協議会負担金については、協議会の中で見直しが図られるように働きかけていく。	課長等名
		③有効性	○				
		④公平性	○				
					B	課長(代理) 齋藤和徳	

(2面) 個別事業の評価

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	24年度予算	24年度決算値	評価⇒適切=○、要改善=△(1面の評価の視点を参照)			
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
観光運営事業	主な個別事業	384 事務補助嘱託員報酬 2人	2,057	2,056	○	○	○	○
		1,183 鎌倉市観光基本計画進行管理委員会委員報償費	159	80	○	○	○	○
		384 富士箱根伊豆国際観光テーマ地区神奈川県協議会負担金	600	600	△	○	○	○
		384 神奈川県観光振興対策協議会負担金	210	210	△	○	○	○
		384 湘南地区観光振興協議会負担金	243	243	△	○	○	○
		384 鎌倉藤沢観光協議会負担金	180	180	△	○	○	○
		384 東大寺サミット負担金	150	150	△	○	○	○
		384 神奈川県観光協会負担金	90	90	△	○	○	○
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							